

事業報告書

団体名	車いすスポGOMI in 掛川実行委員会
事業名	車いすスポGOMI in 掛川～ゴミ拾いはスポーツだ！～
事業内容 (実施内容とスケジュールを具体的に記載)	<p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年8月26日（土）掛川商工会議所及び掛川中心市街地において「車いすスポGOMI in 掛川」を実施した。 ・参加者は4人チームに分かれて、交代で車いすに乗りながら市内のゴミ拾いを行った。拾ったゴミの量と質で得点を出し順位を競った。 ・ゴミ拾いと併せて、街のバリアやバリアフリーについて気づいた点を書き留めていくとともに、実行委員会から与えられたミッションにも挑戦していった。 ・ミッションは、例えば車いすユーザーの目線の低さを体感していくため「車いすで掛川城の天守閣を撮影してみる」、誰もが外出できる街にするためにはトイレが重要であることや、ユニバーサルトイレが本当に誰にとって使いやすいものかどうかという視点を持っていただくための「ユニバーサルトイレを探してみる」など、車いすユーザーと共に内容を考えた。 ・街のバリアやバリアフリーを探すミッションについては、バリアに対して「自分は何ができるか」といった自分の考えを記入するとポイント加点される仕組みとし、参加者が自分事として取り組めるよう工夫をした。 <p><参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は事前に申し込みのあった60名、ボランティアスタッフ13名、社会福祉協議会や市役所、実行委員会による運営スタッフが約20名となった。 ・報道機関としては、テレビ2社、新聞1社、掛川市の広報担当1名が駆けつけた。 ・参加者は掛川市民がほとんどであったが、静岡市、磐田市、袋井市、浜松市などの近隣住民のほか、イベント告知サイトで本イベントを知り愛知県や京都府から駆けつけた参加者もいた。掛川市議会議員3名が実際にチームに加わり競技に参加した。 ・参加者は、家族連れから小中高生、高齢者など幅広い年齢の参加者が集まった。日常的に車いすを使用している車いすユーザーや聴覚障害をお持ちの方など、多様な背景を持った方々も集まっていた。 ・参加者は、4人グループを組んで参加したチームもあったが、一人参加者やペアでの参加者も多く、当日初めて顔を合わせるチームも多かった。しかし、車いすの操作の練習が始まると自然と会話が生まれるようで、親子ほどに年齢が離れた参加者同士が協力して参加する様子が各チームで見られた。 ・審判及び安全管理対策として、各チームにボランティアスタッフ一名を同行させた。ボランティアスタッフは、主催者の声掛けや社会福祉協議会のボランティア募集ページにより募集を行い、高校生や大学生の参加もあった。 ・参加者が集めたゴミは、全体で30リットルのゴミ袋で3袋ほどとなった。各参加者は、掛川中心街のゴミの少なさについて感心している様子であった。掛川がゴミの少ない町2年連続1位であることは実行委員会から何度かアナウンスを行い参加者の理解を深めた。 <p><スケジュール></p> <ul style="list-style-type: none"> 8月1日 社会福祉協議会との打ち合わせ 8月10日 市役所との打ち合わせ／プレスリリース配布 8月20日 コンビニ店舗・蓮福寺・JR掛川駅への依頼

	<p>8月22日 掛川警察署との打ち合わせ／市役所との打ち合わせ</p> <p>＜危機管理＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本イベントにおける危機管理対策として、環境省「熱中症環境保健マニュアル」及び厚労省が作成している障害者向け熱中症対策マニュアルを参考として「車いすスポGOMI in 掛川 危機管理計画書」を作成した。運営スタッフ及び当日のボランティアスタッフと共に読み合わせを行い、関係者間での共有を確実に行つた。 ・事件・事故の発生に備えて掛川警察署警備課には事前に相談を行つた。事件事故発生時は速やかに警察署へ連絡するよう指示を受けた。 ・熱中症や傷病者の発生に備えて、当日は看護師を本部へ待機させた。救急セットの内容は看護師に相談して必要な物品を揃えた。 ・本イベントは各チームがエリア内の各地に散らばってしまうため、各チームに冷えピタ等の簡易救急セットを持たせ、急病者発生時の一次対応を速やかに行えるように備えた。 ・参加賞として掛川茶ペットボトルと塩飴を開会式にて配布し熱中症対策とした。 ・競技中のミッション会場となるコンビニ2店舗、蓮福寺、JR掛川駅には事前に説明を行い了承を得ていた。 <p>添付資料：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすスポGOMIマップ ・車いすスポGOMI in 掛川 危機管理計画書 ・中日新聞朝刊 2023年8月18日 ・静岡新聞 2023年8月28日 ・NHK静岡NEWSWEB 2023年8月27日
事業成果 (事業計画に記載した目的、成果目標及び波及効果に対する達成度等)	<p>【成果目標】</p> <p>(1)街のバリアフリーやバリアに気づきのある人を増やす (2)参加した方が、バリアフリーな街づくりのために個人としてできることを見つけること (3)参加した方が、掛川の良さを再発見し街への思いを深めること</p> <p>【成果指標】</p> <p>上記の(1)～(3)の目標に対して、定量的な指標を立てている。</p> <p>(1)に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①参加者及び運営スタッフの人数が70名を超えること。 ②イベント内で集計する、バリアやバリアフリーに対する気づきが、すべての参加チームから上がってくること。 <p>(2)に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①実施後アンケートにて「個人としてできることができた」と回答する方が参加者の50%を超えること。 <p>(3)に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ①イベント内で集計する街に対する気づきポイントのうち、バリアやバリアフリー以外の気づきについて全体で5個以上、上がってくること。 <p>【成果指標の達成度】</p> <p>(1)①</p> <p>当日は、参加者、ボランティアスタッフ及び運営スタッフ合わせて93名の方に参加いただき目標を達成することができた。</p> <p>(1)②</p> <p>全ての参加チームがバリアあるいはバリアフリーに対する気づきを記入していた。ただしバリアフリーに対する気づきを記入していたチームは12チーム中4チームに留まりこちらの意図に反してやや少ない印象であった。</p> <p>(2)①</p> <p>全てのアンケート回答者から、「個人としてできること」として回答</p>

	<p>があり、ごみ拾いや障がい者支援への前向きな記入があった。</p> <p>(3)①</p> <p>物理的なバリアやバリアフリーについての気づきだけでなく、個々の配慮や声掛けの必要性などいわゆる「心のバリアフリー」についての意見が多く出された。また障害者についてだけでなく、子供やお年寄りなど歩行が困難な方への配慮の重要さ、街の美化への意識の高まり、などについても回答があった。</p> <p>イベント内では、聴覚障害者へのサポートのあり方について意見が述べられるなど、物理的なバリア・バリアフリー、あるいは車いすユーザーにとらわれない多様な気づきが生まれていた。</p> <p>【地域や市への波及効果と達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づきをもった人が掛川市内に増えることで、車いすユーザーや高齢者、ベビーカーを押している方など、歩行に困難を伴う方にやさしい声かけなどサポートできる人が増える。 →身体障害に限らず、様々な理由で歩行に困難を伴う方に対して、多様な働きかけが必要であるという気付きを得ていただけた。 ・参加者が、本イベントで得た気づきをそれぞれの職場や活動に持ち帰り、仕事や活躍に活かしていく。行政、企業、個人店、地域活動など、それぞれの場所でバリアフリーを意識した取り組みが掛川で生まれるきっかけになっていく。 →当日初めて顔を合わせたチームメンバーや審判員、隣のチームなどのコミュニケーションが生まれていた。アンケートでの満足度や評価も高く、参加者にとって思い出の一つとなるような楽しいイベントとできることができたと考えている。本イベントでの気づきを日常生活にいかに展開していくかについては参加者次第であるものの、記憶に残るイベントを実施することでそれぞれの心に種をまくことはできたものと考えている。 ・掛川市の魅力を再発見した参加者が、それぞれの立場でその魅力を発信していくことで、掛川の街おこしにつながる。イベントには報道機関を呼ぶため、イベントの理念がメディアを通して拡散され、SDGsやバリアフリー、環境美化に取り組む掛川市としてのイメージが対外的にも伝わる。 →添付資料にあるように、中日新聞・静岡新聞・NHK静岡NEWSWEBなど、様々なメディアに取り上げていただいた。参加者からもSNSを通じて数多くの投稿が寄せられており、このイベントを通じて掛川市のイメージが上がったであろうと考えている。
事 業 期 間	2023年8月1日～2023年10月31日
今後の事業展望 (反省点・改善点、短期及び中長期のビジョン、継続性・財源確保等)	<p>＜反省点＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は夕立の兆候があり（幸い競技時間中は降雨に見舞われるることはなかった）想定よりも競技エリアが暗く、安全に対する配慮が足りなかったと考えている。熱中症対策として最大限競技時間を遅らせたものの、その分暗さに対する認識が甘くなり、外灯の有無など事前の調査が足りなかった。実際に参加者から「道が暗かった。」という声があがつた。1チームに1つ懐中電灯や反射板等を用意することや、開催時間と同じ時間に競技エリアを下見をし安全性をチェックするなどの安全対策を次回は講じることしたい。 ・熱中症対策については、環境省のマニュアルを参考しながら万全に対策を行ったものの、次回以降は開催時期を秋や春など過ごしやすい時期の明るい時間帯に実施することしたい。 ・実行委員会の中での役割分担が不明確なまま、掛川市役所や社会福祉協議会などの外部の協力者を巻き込んでしまった。その結果、実行委員会としての方針が見えず外部の協力者を混乱させてしまう場面が見られた。そのため、全体としての意思決定が遅れ告知開始が遅くなってしまった。実行委員会内で企画の方向性をまとめた上

で外部機関へは協力を依頼すべきであった。実行委員会内での役割分担を明確にしておくべきであった。

・学生や家族連れなどの若年層を中心ターゲットとしていたが、夏休み期間中の募集開始となってしまった。募集開始が学期中に間に合っていれば学校を通じて学生へ周知することも可能だっただろう。そのためには、真に集客したいターゲット層を明確にし、前倒ししてスケジュールを組むべきであった。

<改善点>

・今回は、車いすスポーツGOMIのルールに従って実施することを重視したが、掛川らしさや私たちの団体らしさなどのオリジナリティを盛り込んでもよかったです。

・街のバリアフリーについて発見することのできたチームが想定よりも少なかった。当日の主催者からのアナウンスが不足していたほか、参加者に渡したワークシートの作り方が分かりにくかったと感じている。今後は主催者として特に気づいてほしい点は参加者にとってわかりやすくしていく必要がある。

<短期のビジョン>

・本イベントについて報道で知つてくださった東京都千代田区神田で行われる11/3「なんだかんだ2」の主催者の目に留まり、実施に向けて準備を進めている。

・新しい企画においては「車いす体験」を軸に置きつつも、演劇やスタンプラリーの要素を取り入れてより多様な気づきが生まれる仕組みとしている。

・今回の企画の反省点や改善点を反映し、新たなイベントに挑戦する中で企画の質を高めていきたい。

<中長期のビジョン>

・当事者目線の気づきをもつてもらうという点においては、体験できる目線の選択肢を増やするとよい。例えば、車いすだけでなくブラインド街歩きの要素も組み合わせるなど検討していきたい。

・内容と表現したいこととのバランスを考えていきたい。今回はスポーツということで得点の基準やルールを明確にし、勝敗や順位がつく仕組みで実施した。しかしながら、本来的には気づきの内容に良し悪しや順位はないはずであり、私たちの団体が目指すところについても、競い合うのではなく多様な方々が共生していくことのできる社会である。自分たちが表現したいことを、より企画内容に反映していく必要がある。

<継続性>

・まずは、他の助成金や企業協賛金を得ながらイベントの形となるものを開発する。第2回目として運よく東京都神田で実施してくださる団体が見つかったものの、まだしばらくは助成金や協賛金に頼っていくほかないであろう。長期的には収益事業などの独自の財源を模索していく。

<財源確保>

・同じ内容の繰り返しではなく、表現の幅を広げより良い企画、新しい企画にしながらその趣旨に合う助成金や企業の協賛金を探していく。

・その中で当団体としてのオリジナルの企画を生み出し、他地域や他団体から正式な依頼を受けて実施できるようにしていく。